

小・中学校の通常学級における「個別の指導計画」の作成と活用

はじめに

平成20年3月に告示された小・中学校の新学習指導要領の総則において、「障害のある児童（生徒）などについては・・・支援のための計画を個別に作成することなどにより、個々の児童（生徒）の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと」が明示され、通常学級においても特別な支援が必要な児童生徒に個別の指導計画を作成することが求められています。各学校では、個別の指導計画の目標や支援の内容・方法の設定等、作成に関する課題や、個別の指導計画を授業でどのように生かせばよいかなど、活用に関する課題があることでしょう。これらの課題を解決し、特別な支援が必要な児童生徒によりよい支援を行うために、小・中学校の通常学級における「個別の指導計画」の作成と活用について、その概略を説明します。



I 小・中学校の通常学級における個別の指導計画作成のメリット

個別の指導計画は、特別な支援が必要な個々の児童生徒の実態に応じて適切な指導を行うために作成されるもので、教育課程を具体化し、一人一人の指導目標・内容・方法を明確にして、きめ細かに指導するためのものです。個別の指導計画を作成するメリットとして、次のようなことがあげられます。

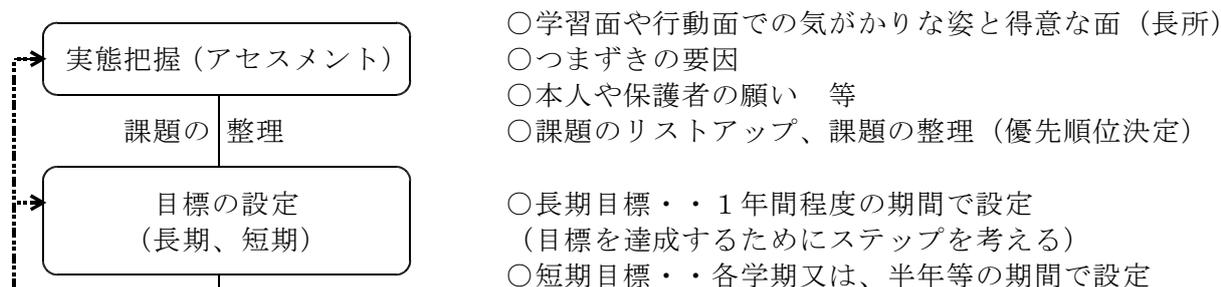
- 児童生徒の全体像を的確に把握することができます。
- 指導の方向性や評価の視点が明確になります。
- 教職員同士の情報の共有と支援の一貫性が図れます。
- 保護者に対して、学校として対応することを明確に伝えることができます。
- 児童生徒自身が、自分の学習の方向性を理解しやすくなります。
- 教職員のスキルアップにつながります。
- 校内委員会（生徒指導、教育相談等にかかる会議を含む）や次年度の引継の資料になります。

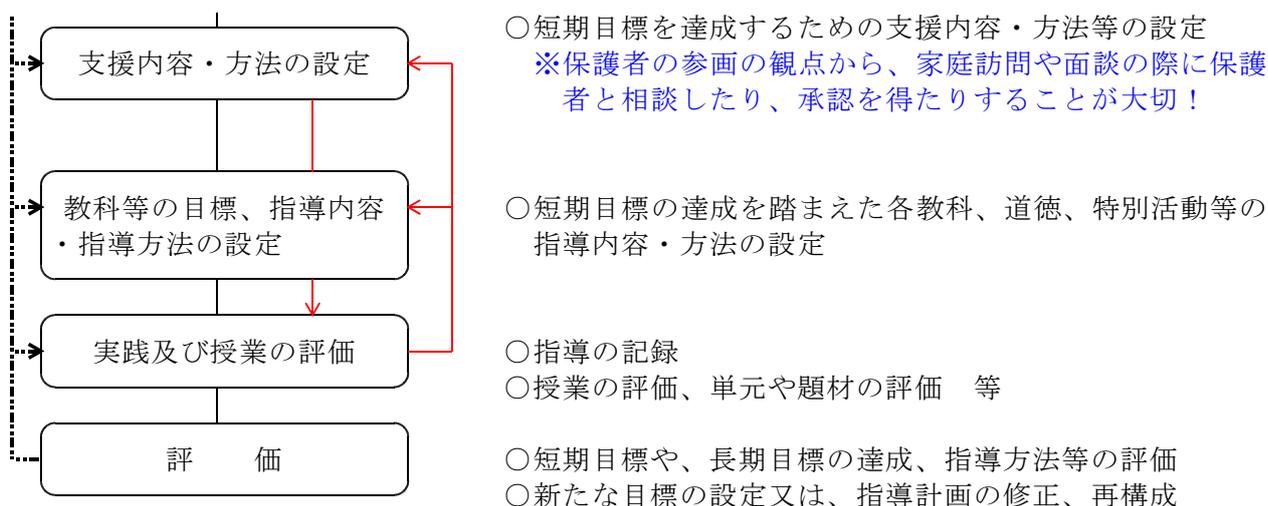
個別の指導計画の作成については、組織的に「P：計画」「D：実践」「C：評価」「A：改善」のサイクルの連続性を保つことが重要です。

II 通常学級における個別の指導計画の作成と活用について

1 個別の指導計画の作成と活用の流れ

個別の指導計画の作成と活用の流れについては、およそ下の図のとおりです。





2 個別の指導計画の作成と主な留意点

(1) 実態把握

特別な支援が必要な児童生徒の実態把握は、担任だけでなく、コーディネーターを含めた校内委員会を中心となって行います。ここでは、児童生徒の状態像を把握するだけでなく、周囲の人を含めた環境とのやりとりなど相互作用の情報なども収集し、将来の姿を予想して必要な支援を考えることにつなげるようにします。具体的には、次のような点について整理します。

- 児童生徒がつまずいている教科とその領域、課題の状況などについて
 - ・学習面では、どの教科や分野で、どのような課題につまずきが見られるか
 - ・行動面では、気がかりな行動の様子とその行動が起こるきっかけとなる事柄や状況、教師がとった反応との関連などを整理する
 - ・社会性の面では、集団での活動や友達とのかかわりの様子などを書く など
- 児童生徒のよいところ、得意なところなどについて
 - ・興味・関心のあることやよいところ、得意なことなどを把握する
- 児童生徒のつまずきの要因や背景にかかわること
 - ・心理検査の結果や児童生徒自身の特性、学校・家庭の環境面から考えられることは何か
- 特記事項

(2) 目標の設定

①長期目標の設定

- ◇1年間程度の期間を設定するのが一般的です。
- ◇多くの課題の中から、優先順位を考えて課題を絞り込みます。
 - ・優先順位を考える場合は、緊急性、成果への期待度、取り組みやすさなどを観点にします。
 - ・必要かつ成果が期待でき、達成感が得られることを優先して課題を設定することは、本人の意欲につながり、他の課題への取組にもよい影響を与えることとなります。
- ◇児童生徒や保護者の願いを踏まえること、よい面を伸ばすこと、児童生徒の困り感に立って考えることが大切です。



②短期目標の設定

- ◇長期目標に照らし合わせて、より具体的な目標を設定したものが短期目標です。長期目標を達成するために設定したスモールステップが、短期目標につながります。学期ごとの期間を

設定するのが一般的ですが、半年又は1か月の期間で設定することもあります。

◇短期目標を設定する時の留意事項は次のとおりです。

- ・できるだけ具体的な記述にします。(場面、何を、どのように)
- ・スモールステップの課題を意識して設定します。
- ・児童生徒主体の目標で、肯定的な表現にします。
- ・評価が可能な目標にします。(条件や基準値を設定すると評価しやすくなります)

(3) 支援内容・方法の設定

◇短期目標を達成するために必要な支援内容や方法を設定します。

- ・児童生徒の得意なこと、好きなこと、興味・関心のあることなどが生かされるようにします。
- ・児童生徒の特性に配慮して、無理なく取り組めるようにします。



(4) 評価

学期又は一年の取組について、目標は達成できたか、支援方法は適切であったかなどについて評価し、修正が必要な箇所を校内委員会等で協議し、改善します。

Ⅲ 個別の指導計画の活用～作成から授業へのつながり～

個別の指導計画の作成から実際の指導のつながりについて、簡単に説明します。

— 小学校1年生A君の実態把握の一部 —

- ・興味のあるものがあると席を離れることがある。
- ・鉛筆や消しゴムで遊んでいることが多く、話を聞いていない様子が見られる。
- ・自分の気持ちを一方的に話したり、質問に対して見当違いの内容になったりする。
- ・絵や写真などは、興味を持ってよく見ている。
- ・キャラクターの絵やマスコットが好きである。

1 「課題の整理」から「支援の設定」まで

A君の個別の指導計画の作成について、例を示します。

課題の整理

- 音声言語だけでは、課題や内容をとらえにくいこと
- 教師の話に注意を向けられるようにすること (以下略)

・A君にとって、聞くことだけでは理解しにくいので、視覚的に分かりやすく興味を持てる絵や写真等を使って課題や内容を伝えることを考えたい。また、物事に集中できるように、A君の席の位置や気がそれないような教室環境を整えることも考えていきたい。

長期目標

- 教師の話が分かって、活動に取り組むことができる。

・①絵や写真などを手がかりに、課題や活動の内容が分かる ②絵や写真、手順表を手がかりに、自分から活動に取り組むという2つのステップを想定した。

短期目標

- 絵や写真を手がかりに、自分のやる事が分かって活動に取り組むことができる。

支援の内容・方法

- 課題について説明するときには、まず「A君」などと声をかけ、注意を喚起できるようにする。次に、活動の内容を描いた絵や写真を提示したり、話の内容を動作化したりすることで、話の内容をとらえやすくする。
- 教師が注意を喚起できるように、教卓のすぐそばに席を設けたり、学習中に他のことが気にならないように、掲示物や置物等の場所を変えたりする。
- 結果ではなく、活動に取り組めたことを賞賛し、自信がもてるようにする。(以下略)

2 「教科等の支援内容、指導方法の設定」

ここでは、A君の国語科を例にその概略を示します。

内容	支援の内容・方法
話すこと	◇「いつ」「だれが」「なにを」等の文字カードやワークシートを提示することで、A君が話す内容を整理したり、事柄を順序立てて話したりすることができるようにする。 (以下、略)
聞くこと	◇質問や発表を聞く場面では、提示されたキーワードや絵、写真等を見て、要旨をつかめるようにする。(以下、略)
書くこと	◇教師がA君と話す中で、経験したことや想像したことを教師が絵に描き、描いた絵を見ながら文字化していけるようにする。(以下、略)
読むこと	◇文章の内容を絵や動作で示したり、キーワードを探したりする活動を通して、文章の内容をとらえられるようにする。(以下、略)

3 実際の指導の例

単元「たんけんしたよ、みつけたよ」全5時間（光村出版『こくご 1上』）

【単元の解説】本単元では、職員室、保健室等、学校内にあるそれぞれの部屋を探し、何をやる場所か、何が置いてあるかなどを整理し、発表する活動が中心である。経験したことなどについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事なことを落とさないで聞いたりすることをねらいとしている。



【本単元のA君への支援】

場面(抜粋)	具体的な支援の方法
担当する部屋を調べる	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する部屋の写真や「しょくいんしつ」「ほけんしつ」などのカードを持たせ、担当する場所を意識できるようにする。 ・担当した場所に何が置いてあったかを思い出せるようにするために、A君が写真を撮る活動を設定する。
発表の原稿を作成する	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と話したり、撮った写真を見たりしながら、何が置いてあるかを確認したり、何をやる場所かを考えやすいようにする。 ・撮ってきた写真を見て「とびばこ」「つくえ」等の文字にしていくことでワークシートに書き込めるようにする。
友達の発表を聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を聞くときには、教師が黒板に次のような文字カードを発表内容に合わせて黒板にはることで、大事なことを聞き取りやすいようにする。 <p> どこ（事前に掲示しておく）→ ほけんしつ（教師が掲示する） なに（事前に掲示しておく）→ くすり（教師が掲示する） </p>

参 考

特別支援学校では、特別な支援が必要な児童生徒への支援について相談を受け付けています。個別の指導計画等について、特別支援学校に問い合わせると解決の糸口が見つかるでしょう。